

島のむんがたり

呪力を持つ伝統工芸品
「カマッタ」（釜蓋）



大鍋用に作られた「カマッタ」

町内の集落毎の特徴や伝承、風習や習俗など、聞き取り調査や現地調査を基にきめ細かくまとめた徳之島町史の民俗編「シマの記憶」には、とても興味深い記述がたくさんあります。その中でも驚いたのは、どの集落にも「オトロシド」と呼ぶ怖い所があること。

例えば、花徳集落の「場所の記憶」のページでは、地図上に「オトロシド」が一目瞭然でわかる

ように示されています。元々は、戦時中の火葬場や野戦病院があつた場所であり、他にはケン

ムンに関連した伝承があることから、基本的には子どもたちが近づかないようにするためだつたのでしょうか。その地図を参考に現地に足を踏み入れてみると、なぜか独特の雰囲気を感じます。

島には、このような目に見えないもの、不思議な力に関する伝承が数多く残されていますが、

「呪力を持つ『カマッタ』」と題する徳富重成氏の新聞記事では、「浜下り行事の際に海浜に行かなき者を調べる神がいて、行事に参加せずに残っていると神の罰を受けねばならない。（中略）早急に釜蓋を被ってかくれ、神が去るのを待たねばならなかつた」という話が紹介されています。

その能力は、見回りをする神に見つからないよう姿を隠し、病弱の赤子に取り付いた邪神を祓うなど呪力を持つとのこと。これだけきめ細かく編みこむには、大変な労力と時間が必要と思われ、それだけ作り手の念力が蓄積されているような感じがします。

【問】郷土資料館
0997-82-12908

【郷土資料館長遠藤智】